



現場主義を貫く医師 次なるステージへ

谷藤典音氏

江別谷藤脳神経クリニック院長

現在51歳。関連病院で当直を月の3分の1ほど担当している。同世代で当直を担う医師がほとんどいない中、「脳外科医に休みなし」という言葉を体現。まさに「医療人」と呼ぶにふさわしい人物だ。増え続ける患者に対応すべ

(たにふじ・のりと)1964年札幌市出身。92年東京医科大学卒業。江別谷藤病院副院長などを経て09年11月江別谷藤脳神経クリニックを開院。

く、15年は診察室を拡大。医療機器や画像診断システムも一新した。
「無料送迎なども好評で、多くの患者さんがお越しになっています。常に最先端の医療設備をそろえることが患者さんへの還元」と大学病院顔負けの設備をそろえている。
12月には駐車スペースを増設。新たに40台分を確保した。加えてソフト面の強化にも着手し、スタッフも増員した。
16年は診療部門や検査部門の拡充を計画。送迎サービスも強化し、複数の疾患を抱える患者の負担軽減も図るなど、次なるステージに向けて一歩を踏み出す。地域医療への貢献度は高まるばかりだ。

トップ
100人の
先見
2016年の**決意**